

千年の森便り No.186

2019.1.24

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

1月20日(日) 晴

参加会員は秋元、伊藤、鶴沢、久我夫妻、栗山、坂本、田島、成沢、福島、真鍋、松田、山口の13名。



今年の活動初めに13名出勤して



サカキ(榊)かヒサカキか同定



お供えの「梅一輪」で安全祈願の乾杯

新しい年の活動始めには祠山に集まり、安全祈願するのが恒例です。

その道に詳しい松田さんの作法指導に従い、揃って二礼二拍手一礼の後、榊の枝を振ってお払いしてもらいました。尚、お払いに使った榊は島内自生の正真正銘の榊で、ヒサカキではありません。代用品でないと思うと一層有難みがあり、清々しい気分になりました。お供えの清酒は千葉県産の銘柄「梅一輪」で正月に相応しいものでした。

林内に危険は付き物ですから、日頃から各自が安全には十分気を配ると同時に、何かの節目ごとに気を引き締めるのは良い事だと思います。

礼拝後に古い空き缶などのゴミが見えたので久我則子さんが掘り出して処分して下さいました。会の活動以前からあったものと思いますが、土に埋もれ落ち葉などに隠れていて今まで気が付かなかったものと思います。永年の汚れが取り除かれて山の神も喜んでいるでしょう。

その後お昼までは各自の活動項目に従ってもらい、午後は「豊英島の自然」増補版発行に向けての話し合いをしました。建設的な意見が多く寄せられましたが、まだまだ紆余曲折はあると思います。皆さんご協力を宜しくお願いします。(坂本)

〇13年目に枯れたマダケ

2000年に千年の森をつくる会の前身となる活動が始まった当初、島はマダケで覆われていた。平坦地はもちろんホコラ山までマダケが生えていたと言っても信じられないかもしれない。その後、2003年に会が発足し、現在の形に森林整備するとともに、マダケ林、ホテイチク林などをゾーン区分して管理していたが、ほどなくシカによるタケノコ食害が始まったため、2006年から周囲を保護網で囲い発生竹1本ずつをマーキングをして太さ等の調査を行ってきた。調査は2012年で終了したが、竹1本の地上部は何年程度持続するのか注目してきたところ、

今回初めて2006年発生竹10本のうち3本が枯れていた。発生から13年目で枯れはじめたことになる。なんでもネット検索する時代だが、継続観察して自分の目で確認する面白さを実感した。(伊藤)



13年目で枯れたマダケ地上部

○コショウノキの保護

シカの食害から守るため、コショウノキの周囲に金網と支柱で、囲いを作りました。蕾がついているものを優先的に2本、まだついていないもの2本と合わせて4本を保護しました。

来月には花が見られる筈です。(成沢)



○ツチアケビ

千年広場南のツチアケビは12月まで30個近い実をつけていましたが、1月20日、全ての実が無くなっていました。10月以降食害保護金網を撤去していたので、野鳥か動物に食されたものと推測されます。野鳥による種子散布に期待して金網を撤去していますが、動物にもその効果があるのかどうかは不明です。今シーズンのツチアケビモニタリングは今回で終了し、ホームページに掲載します。豊英島のツチアケビは年々衰退傾向ですが、昨秋のナラタケ大発生のFace Book記事にツチアケビが復活するのはとの友塚さんの投稿のように、復活に期待したい。



ツチアケビ 11月19日



ツチアケビの残骸 1月20日

○シャシャンボの実

12月まで2~3百個あったシャシャンボの実はずっかりなくなっていました。これは野鳥に食されたに違いないと思われます。(真鍋)



シャシャンボの実(栗山 12月)



実のないシャシャンボ(1月)

○島外農地にコゴミ植え付け

コゴミとは東北や北海道で山菜としての呼び方で、クサソテツと言う羊歯の仲間です。食用になる羊歯にはワラビ、ゼンマイが主ですが、いずれもあく抜きしないと食べられません。その点、コゴミはあく抜き無しで食べられてお手軽です。

苗は私の畑で増えたものを株分けしました。50株ほど植えましたので上手く根付いて、シカの食害が無ければ来年以降にお土産に持ち帰れると思います。(坂本)



(参考) 植栽のコゴミ芽出しの様子

○昼食のふるまい

お借りした島外農地での、昼食の鍋のふるまいも3回目となった。今回は鶴沢さんが当番で、福島県桧枝岐から取り寄せた材料に千葉県産野菜を加えて豪華なけんちん汁風の鍋となった。いつものことながら、温かいものが口に入ると気持ちまで温まってくる。各自の正月の過ごし方や千年の森の今年の活動内容など話に花がさき、ほっこりとした時間が流れた。(伊藤)



○センサーカメラの画像

祠山下の西側斜面にアナグマの巣穴と思われるものが発見されています。果たしてその正体は？ 真偽を探るべく穴を見通せる角度にセンサーカメラを設置してもらったところ、アナグマが2回写りました。これで巣穴の可能性が益々高くなりました。今後巣穴に出入りの場面でも写れば決定的です。

その他、ニホンジカ、ノウサギ、ハクビシンが写りました。センサーカメラは動物調査に有効ですが、常に風雨に晒される環境で使用するので不調になり易く取扱者を悩ませています。(坂本)



アナグマ(12/19)



ハクビシン(12/20)



ニホンジカ(1/16)

に風雨に晒される環境で使用するので不調になり易く取扱者を悩ませています。(坂本)

○ニホンジカによる食害

今年最初の活動日、落葉樹は葉を落とし、林内は明るくなって散策にはもってこいの季節となりました。足元には落ち葉が積もっていて、歩くとガサゴソにぎやかです。

そんな中、足元に目立っていたのはシカのフン。見通しが良くなったせいか、それとも気温が低くなって分解が遅くなったせいなのか、あちこちで見つかります。同時に、よく見てみるとあちこちに食痕も見つかります。伐根から出てきた萌芽枝や、ミヤマシキミ(有毒)まで食べられています。植物を食べるシカにとっては餌が少なくなる時期なので、あまりおいしくないものでも我慢して食べているのかもしれませんが。

そして、シカのフンは、落ちてはいるはずのない広場横の植生保護柵の中でも見つかりました。シカが柵内に侵入したらしく、一部の植物には食痕も認められました。このままでは植生保護柵の意味がないので、シカの侵入経路を探したところ、南側のネットに大きな穴がひとつ・・・。栗山さんが細紐で縫い合わせて侵入経路の穴をふさぎましたが、

これからも油断はできませんね。植生を保護するためには、もっと丈夫なネットに交換する必要があるかもしれません。



フレッシュなシカのフン



萌芽枝の食害



食害を受けたミヤマシキミ



ネットに大きな穴



器用に補修する栗山さん

シカではなさそうですが、広場近くの切株や、植生保護柵内の切株の地際に、動物が餌を探すためにほじくり返したような痕跡が見つかりました。いろいろな動物がいることが自慢の豊英島ですが、さてこれは誰の仕業なのでしょう？まだまだ興味は尽きません。(福島)



腐った切り株の根元を掘った跡

切り株の根元に落ちていた糞

お知らせ

○今後の年度内活動日

2月17日(日) 9時30分 君津市清和自然休養村管理センター集合。光環境調査(冬季)、ホテイ岬地区整備、植物、野鳥、昆虫調査など。

3月17日(日) 9時30分 君津市清和自然休養村管理センター集合。ニホンジカ個体数調査、ヒメコマツ成長状況調査(樹高、直径計測)、ホテイ岬地区整備、植物・野鳥・昆虫調査など。

4月活動日は3月20日過ぎにお知らせします。5月以降の活動日は4月の年次総会で決まり次第、お知らせします。

○今年のきのご観察会

夏のきのご観察会は8月18日第3日曜日、秋のきのご観察会は10月20日第3日曜日開催の予定です。いずれも例年通り吹春講師にご指導お願いします。

○森林研究所平成30年度試験研究成果発表会

2月7日(木) 午後1時30分からさんぶの森文化ホール(山武市埴谷1904-5さんぶの森公園内)において森林研究所の平成30年度試験研究成果発表会が開催されます。

発表内容は、以下の3課題が予定されております。

- 1 マツ材線虫病により高い抵抗性を持つ苗木生産(福原)
- 2 未利用木質バイオマスを有効活用するための簡易な搬出方法の比較(黒田)
- 3 1年生クロマツコンテナ苗の生産技術と植栽適期(幸)

会員の皆様、お誘いあわせの上、ご参加下さい。